

第 1 期中期目標期間の達成状況に関する評価結果

宮崎大学

平成 2 3 年 5 月

独立行政法人大学評価・学位授与機構

(I) 教育に関する目標

1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 「教育に関する目標」に係る中期目標（4項目）のうち、1項目が「良好」、3項目が「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

(参考)

平成 16 ～ 19 年度の評価結果は以下のとおりであった。

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 「教育に関する目標」に係る中期目標（4項目）のうち、1項目が「良好」、3項目が「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

2. 各中期目標の達成状況

① 教育の成果に関する目標

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 平成 16 ～ 19 年度の評価結果は「教育の成果に関する目標」の下に定められている具体的な目標（11 項目）のうち、4 項目が「良好」、7 項目が「おおむね良好」であったことから、「中期目標の達成状況がおおむね良好である」であった。

平成 20、21 年度の達成状況を踏まえた結果は、4 項目が「良好」、7 項目が「おおむね良好」とし、これらの結果に加え、学部・研究科等の現況分析における関連項目「学業の成果」「進路・就職の状況」の結果も勘案して、総合的に判断した。

<特記すべき点>

(優れた点)

- 中期計画「フィールド教育を推進し、それぞれの専門にかかわる現場から学ぶ態度を涵養する」について、全学的に関連科目の充実に取り組み、特に教育文化学部ではフィールド教育の一環として、「自然・科学体験学習」、「地域調査演習」等の地域総合実習やまちづくりに係わる授業を開講していることは、地域社会との連携強化につながっている点で、優れていると判断される。
- 中期計画で「教育研究組織を点検・評価するための全学的な委員会等を設置する」としていることについて、学内教育・研究組織を改組し、平成 19 年度から教育・学生担当副学長が統括する教育研究・地域連携センターを設置したことは、効率的かつ実効的な管理運営を可能にしている点で、優れていると判断される。

② 教育内容等に関する目標

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 平成 16 ～ 19 年度の評価結果は「教育内容等に関する目標」の下に定められている具体的な目標（10 項目）のうち、2 項目が「良好」、8 項目が「おおむね良好」であったことから、「中期目標の達成状況がおおむね良好である」であった。

平成 20、21 年度の達成状況を踏まえた結果は、2 項目が「良好」、8 項目が「おおむね良好」とし、これらの結果に加え、学部・研究科等の現況分析における関連項目「教育内容」「教育方法」の結果も勘案して、総合的に判断した。

＜特記すべき点＞

(優れた点)

- 中期計画「社会の要請や学生のニーズに応え、また、学生の履修歴等に配慮して、適切な授業科目を開設し、カリキュラムを改善する」について、県内の高等教育機関からなる「高等教育コンソーシアム宮崎」を組織し、単位互換制度を導入して、教育プログラムを拡大したこと及び大学・大学院における教員養成推進プログラム「教師教育支援モデルの構築と展開」に採用されたことは、教育・研究に取り組む体制が充実している点で、優れていると判断される。
- 中期計画「学生の希望・適性に応じた弾力性のある教育研究制度を導入する」について、夜間履修制度や長期・短期履修制度など多様な制度を整備し、学生のニーズに応えていることは、優れていると判断される。
- 中期計画「生命科学・環境科学等の学際的独創的研究を進める教育体系を構築する」について、医学系研究科及び工学研究科で「魅力ある大学院教育」イニシアティブに採用され、それによる成果を基に、医学系研究科博士課程の再編及び農学工学総合研究科博士後期課程の設置を実施するなど、研究科の改組を着実に進めていることは、優れていると判断される。

(特色ある点)

- 中期計画「地域社会のニーズに対処できる人材を養成するために、地域の人材・施設を利用し学習環境の充実を図る」について、産官学連携に基づき、新たな教育プログラムとして長期インターンシップを導入したことは、特色ある取組であると判断される。
- 中期計画「地域から修士（博士）論文テーマを公募し研究成果を公表する」について、修士・博士論文を地域からの公募によって作成しその成果を提案者に還元すること及び公募による研究テーマが共同研究に結びついたこと等は、特色ある取組で

あると判断される。

③ 教育の実施体制等に関する目標

【評価結果】 中期目標の達成状況が良好である

(判断理由) 平成 16 ～ 19 年度の評価結果は「教育の実施体制等に関する目標」の下に定められている具体的な目標（10 項目）のうち、1 項目が「非常に優れている」、2 項目が「良好」、7 項目が「おおむね良好」であったことから、「中期目標の達成状況が良好である」であった。

平成 20、21 年度の達成状況を踏まえた結果は、1 項目が「非常に優れている」、2 項目が「良好」、7 項目が「おおむね良好」とし、これらの結果に加え、学部・研究科等の現況分析における関連項目「教育の実施体制」の結果も勘案して、総合的に判断した。

＜特記すべき点＞

（優れた点）

- 中期計画「生命科学・環境科学に関連する特色ある博士課程を構築するため、大学院研究科の再編成を図る」について、平成 19 年度に農学工学総合研究科博士課程を設置したことは、農学と工学が連携・融合した新たな学際的領域を開拓し、生命科学、環境科学等に特色を持つ教育研究の展開を可能とする体制が整備されている点で、優れていると判断される。

（特色ある点）

- 中期計画「獣医学教育を充実するため、学内外と連携して教育体制の整備を推進する」について、獣医臨床繁殖学講座、獣医臨床放射線学講座、獣医寄生虫学講座の新設、学外の獣医師に対する臨床教授の称号付与及び家畜保健衛生所との連携強化は、獣医学科の教育体制の充実につながっている点で、特色ある取組であると判断される。

④ 学生への支援に関する目標

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 平成 16 ～ 19 年度の評価結果は「学生への支援に関する目標」の下に定められている具体的な目標（4 項目）のすべてが「おおむね良好」であったことから、「中期目標の達成状況がおおむね良好である」であった。

平成 20、21 年度の達成状況を踏まえた結果は、4 項目のすべてが「おおむね良好」であることから判断した。

＜特記すべき点＞

（優れた点）

- 「中期計画に記載されていない措置等（チャレンジプログラム）」について、学生に

対する社会性の育成を目的とする「とっても元気！宮大チャレンジ・プログラム」の実施は、学生の企画による教育・研究、ボランティア活動、課外活動等、多種多様な活動を支援し、学生のやる気を起こさせている点で、優れていると判断される。

- 中期計画「保健管理センターの健康管理システムを整備・充実し、健康教育を定期的に実施する」について、カウンセリング、心身医学セミナー、禁煙セミナー、年6回の「禁煙塾」等、積極的できめの細やかな健康教育を実施したことは、特に喫煙率の減少という成果につながっている点で、優れていると判断される。
- 中期計画「学生ボランティア及び学外留学生支援組織と連携し、留学生の生活支援の強化を図る」について、学生ボランティアと民間ボランティアの連携による日本語支援、留学生のホームステイ、留学生シンポジウムの開催等を行い、さらに、私費外国人留学生の財政支援策の一環として、国際連合大学の「私費留学生育英資金貸与事業」を九州地区の国立大学で初めて導入し、留学生の申請が認められていることは、優れていると判断される。

（特色ある点）

- 中期計画「学生の相談や質問に、電子メール等でも対応できる体制を整備する」について、「学生なんでも相談室」への来室のみならず、電子メールや電話による相談を受け付けるシステムを構築したことは、柔軟な相談体制が整備されている点で、特色ある取組であると判断される。
- 中期計画「就職に関する全学的な検討組織を整備し、学務部に就職支援室を設置するとともに、学外の就職関連組織とも連携して、就職支援体制を強化する」について、「高等教育コンソーシアム宮崎」と連携して、福岡で開催される合同会社説明会へ参加する学生の便宜を図るために、バスの運行を行っていることは、特色ある取組であると判断される。
- 中期計画「留学生受入れ及び生活支援に関する業務に対応するために、専任教員や専門の事務職員を配置して組織的に対応する」について、国際連携センターにおいて、海外向け広報のために米国、韓国、中国、台湾の学生を国際交流アソシエイトとして雇用していることは、特色ある取組と判断される。

（Ⅱ）研究に関する目標

1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 「研究に関する目標」に係る中期目標（２項目）のすべてが「おおむね良好」であることから判断した。

(参考)

平成 16 ～ 19 年度の評価結果は以下のとおりであった。

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 「研究に関する目標」に係る中期目標（２項目）のすべてが「おおむね良好」であることから判断した。

2. 各中期目標の達成状況

① 研究水準及び研究の成果等に関する目標

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 平成 16 ～ 19 年度の評価結果は「研究水準及び研究の成果等に関する目標」の下に定められている具体的な目標（６項目）のうち、２項目が「良好」、４項目が「おおむね良好」であったことから、「中期目標の達成状況がおおむね良好である」であった。

平成 20、21 年度の達成状況を踏まえた結果は、２項目が「良好」、４項目が「おおむね良好」とし、これらの結果に加え、学部・研究科等の現況分析における関連項目「研究活動の状況」「研究成果の状況」の結果も勘案して、総合的に判断した。

<特記すべき点>

(優れた点)

- 中期計画「大学として学際的・先端的領域を含む重点研究領域の設定を行う。重点領域は、生命科学に関連する分野、環境・エネルギー科学に関連する分野とする」について、重点領域の生命科学研究と環境・エネルギー科学研究に予算を戦略的に重点配分し研究を推進しており、生命科学研究においては、21 世紀 COE プログラム「生理活性ペプチドと生体システムの制御」に採択されるなど、質の高い研究活動を持続していることは、優れていると判断される。
- 中期計画「社会的な要望に対応した研究課題の設定を図る」について、学長裁量経費の重点配分による県内中小企業との共同研究の推進、技術移転、シーズ集の発刊等の取組を実施しており、また、地域社会からの科学技術相談件数が増加していることは、地域の要望に応じた研究に努めている点で、優れていると判断される。

(特色ある点)

- 中期計画「地域に関連した研究を推進する」について、県との連携で地域結集型共同研究事業、都市エリア産学官連携事業及び地域新生コンソーシアム事業等を推進し

たこと及び地元の銀行、宮崎県工業会、宮崎県経済農業協同組合連合会（JA 宮崎経済連）との連携協定の締結は、地域産業界の発展に貢献しているという点で、特色ある取組であると判断される。

② 研究実施体制等の整備に関する目標

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

（判断理由） 平成 16 ～ 19 年度の評価結果は「研究実施体制等の整備に関する目標」の下に定められている具体的な目標（8 項目）のうち、3 項目が「良好」、5 項目が「おおむね良好」であったことから、「中期目標の達成状況がおおむね良好である」であった。

平成 20、21 年度の達成状況を踏まえた結果は、3 項目が「良好」、5 項目が「おおむね良好」とし、これらの結果を総合的に判断した。

＜特記すべき点＞

（優れた点）

- 中期計画「研究担当副学長を長とする研究推進委員会を設置し、全学的な研究の企画を行い、研究方法や成果の評価を行うとともに、評価結果に基づく改善の指示及び研究資金等の重点配分を行う」について、平成 17 年度に大学研究委員会を組織し、その下に「研究企画・推進チーム」、「研究評価チーム」を設置したことは、「研究戦略経費、若手研究者の特色ある研究に対する支援経費」の配分基準を明確にし、その成果についての事後評価の実施及び情報公開につながっている点で、優れていると判断される。

（Ⅲ）その他の目標

（１）社会との連携、国際交流等に関する目標

１．評価結果及び判断理由

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

（判断理由） 「社会との連携、国際交流等に関する目標」に係る中期目標（1 項目）が「おおむね良好」であることから判断した。

（参考）

平成 16 ～ 19 年度の評価結果は以下のとおりであった。

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

（判断理由） 「社会との連携、国際交流等に関する目標」に係る中期目標（1 項目）が「おおむね良好」であることから判断した。

2. 各中期目標の達成状況

① 社会との連携、国際交流等に関する目標

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 平成 16 ～ 19 年度の評価結果は「社会との連携、国際交流等に関する目標」の下に定められている具体的な目標（6 項目）のうち、3 項目が「良好」、3 項目が「おおむね良好」であったことから、「中期目標の達成状況がおおむね良好である」であった。

平成 20、21 年度の達成状況を踏まえた結果は、3 項目が「良好」、3 項目が「おおむね良好」とし、これらの結果を総合的に判断した。

<特記すべき点>

(優れた点)

- 中期計画「独立行政法人日本学生支援機構や JICA 等への協力を通して開発途上国等への支援を推進する」について、国際協力機構（JICA）事業を実施しており、また、タイ国との医学部相互研修事業で積極的に学生及び研修医の派遣・受入れを行うなど人的交流を深めたことは、優れていると判断される。

(特色ある点)

- 中期計画「地域住民に対する図書館や体育施設等の開放を積極的に進める」について、地域住民に向け図書館の利用案内をウェブサイトに掲載したこと及び日曜開館を実施したことは、利用者の増加につながり地域との連携強化が期待される点で、特色ある取組であると判断される。